

平成21年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」
課題の指定について

平成21年8月11日
総合科学技術会議

平成21年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」
課題として、下記の課題を指定することとする。

記

課 題 名	内 容	担当府省等
健康研究推進における基盤整備のための疫学研究(コホート調査)の実態に関する調査研究	コホート調査研究の先進国である EU 諸国、米国における主要な疫学研究の状況を調査するとともに、我が国で行われている疫学調査の実態を調査し、その比較分析を行い、健康研究推進戦略等に基づく疫学基盤の整備に向けて活用する。 (実施予定期間：平成21年度)	内閣府 (※)
EU諸国における若手研究者の育成システムに関する調査研究	国や国の研究機関が研究者、特に若手研究者を採用して、個々の研究機関に配属させて研究に従事させるという仕組みがあるドイツやフランスなどEU諸国における仕組みや、更に幅広くこれらの国における若手研究者の育成システムについて詳細に調査することにより、その結果を我が国における検討に活用する。 (実施予定期間：平成21年度)	内閣府 (※)
高度科学技術人材育成強化策検討のための基礎的調査	産業界と連携して、企業で活躍する大学院修了者等に対して振り返り調査を行い、在学中の教育等に対する意見を収集・分析し、高度科学技術人材の育成強化策の検討に活用する。 (実施予定期間：平成21年度)	内閣府 (※)

※担当府省において、入札により実施機関を選定し課題を実施

健康研究推進における基盤整備のための疫学研究の実態に関する調査研究



【将来の成長に向けた科学技術政策の重要課題(中間とりまとめ)】

(平成21年4月21日、総理大臣が主催する第80回総合科学技術会議において承認)

☆革新的シーズの発掘に向けた基盤整備～革新的医療情報活用～

○倫理面に配慮しつつ、**大規模集団疫学調査データ**とゲノム情報を融合した研究を推進

【健康研究推進戦略策定に向けた提言】(平成21年6月3日、4大臣と有識者から構成される第5回健康研究推進会議において報告)

☆革新的な医薬品・医療機器等を実用化していくためには絶え間ないシーズの発掘が不可欠

《絶え間ないシーズの発掘》

○革新的な手法を用いた展開

・個人情報保護に十分配慮した上で**大規模疫学調査**に超高速遺伝子解析技術等を融合した研究を実施し、シーズを探索するための研究を推進



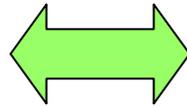
大規模疫学調査の実施は必須

当該調査研究にあたっては**専門研究者の参加が必須**

【疫学研究の現状】

《我が国》

- ・ 大規模な地域疫学調査は少ない
- ・ 大規模疫学調査の基盤が弱い
- ・ ノウハウ等の蓄積が少ない



- ・ 比較・分析
- ・ 課題抽出
- ・ 推進施策検討

《欧米》

- ・ 大規模疫学調査が実施中
- ・ 大規模疫学調査の基盤が整備済
- ・ ノウハウ等の蓄積が多い

調査対象

- 英国: UK バイオバンク (バイオバンクPJ) 他
- スウェーデン: カロリンスカ研究所 他
- 米国: 国立心肺血液研究所(フラミンガム研究) 他等

【研究成果の活用】

国際標準の10万人規模の疫学研究(コホート調査)について調査・分析を行い、その成果を我が国の疫学研究基盤の構築に向けた取組みに活用

EU諸国における若手研究者の育成システムに関する調査研究

本調査研究の背景

(第3期科学技術基本計画フォローアップ)

・博士課程修了者のキャリアパス確立に向けての取組みは遅れており・・・若手研究者が不安を抱かないように、複数・多様なキャリアパスを明確に提示し、大学等はこれにしたがって若手に指導に当たることが重要である。

(基礎研究強化に向けた長期方策検討WGにおける審議経過)

・現在、国は、若手研究者に自立と活躍の機会を与えることを目的として、テニュアトラック制の導入を図る機関を支援している。今後は、このような組織に対する支援に加えて、国が国内外から優れた若手研究者を募集・採用し、人件費と研究費を支援するという新たな仕組みを検討。

(平成22年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針)

・基礎研究の強化を図るため、独立した若手研究者の育成システムの拡充・改善。

本調査研究の目的

・ドイツ(DFG)やフランス(CNRS)などにおいて行われている、国の研究助成機関が研究者を選考した上で、個別の研究機関において研究に従事させる育成システムを調査。同時に、我が国の大学等や実際の若手研究者から、若手研究者の育成システムの在り方について意見を聴取。

・EU諸国のシステムや実態を把握するとともに、我が国で実施する際の課題を調査し、これらを踏まえ、我が国において、若手研究者が独立して活躍することができる育成システムの新しい形を検討。

・優秀な若手研究者の確保、それによる我が国の国際競争力の強化を目指す。

本調査研究の具体的内容

1. EU諸国における若手研究者のキャリアパス等に関する調査

・大学院を修了した若手研究者がどのようなルートや選抜を経て、独立した研究者として研究に従事するかについて調査。また若手ポストの確保の観点から、教授等のシニア職に関する流動や外国人研究者の採用の実態を調査。

2. 国や国の機関が若手研究者を募集、選考し、個々の研究機関に配置するEU諸国の仕組みについて詳細に調査

・研究者の選考や配置先の決定方法、採用の規模、配置先での身分、研究者の人件費や研究費、またその負担方法など仕組みについて調査。
・この仕組みの目的及び効果、また採用された研究者のその後のキャリアパスを調査。

3. 我が国の大学等や若手研究者に、新しい若手研究者の育成システムについて意向を調査

・大学等には数年後の定年制ポストを用意した上で、国の機関が募集・選考する若手研究者を独立研究者として受け入れる意向があるか、また、国内外の若手研究者には応募の意向などについて調査。

高度科学技術人材育成強化策検討のための基礎的調査

背景

2009年の科学技術政策の重要課題(第79回総合科学技術会議)

科学技術を担う多様な人材育成・人材活用の強化

(具体的施策)

世界トップレベルの学術研究を担う研究者と産業界で活躍する高度技術人材それぞれの大学院における育成強化策の推進【新規】

将来の成長に向けた科学技術政策の重要課題(中間的なまとめ)(第80回総合科学技術会議)

人材最大活用社会の実現

国際競争を勝ち抜ける高度産業人材の育成～日本の「底力」の強化～

「大学院における高度科学技術人材の育成強化策検討WG」における審議経過(第82回総合科学技術会議)

課題解決の方向性

大学院(教員)、院生(学生)、企業(産業)の視点からみた課題解決の方向性

緊急性・目的

今年度中を目途にWGにおいて高度科学技術人材の育成強化策を検討しており、その取りまとめに当たっては、産業界で活躍する学位取得者の視点が不可欠である。このため、本調査を実施して「院生(学生)の視点」に立ったエビデンスを収集し、課題解決の方策の検討に資することとする。

調査概要

- 調査内容: 大学院修了者等に対する振り返り調査(アンケート形式)
- 調査対象: 大学院修了後10年程度を中心とした社会人(在学生は、社会が求める知識、能力を把握しているといえないため、今回は対象外)
- 調査項目: 社会人の経験を踏まえた上で、在学中の教育等で何が必要であったかを振り返ってもらう。また、現在学位取得のメリットを感じているか、今後どうあるべきかなどについて意見を出してもらう。産業界、大学の意見と比較する内容としては、「学習の質と量」「指導方法・進路指導」「社会での評価」などがある。
- 調査規模: 産業界を中心に調査を依頼し、回答数1,000人規模を想定。